

意見交換の概要
(平成元年8月7日(水)・今治市クリーンセンター)

1. 愛媛県の観光振興（インバウンド）について

8月3日、4日におんまくが行われたが、人がにぎわい、人が多く出ていた。
しかしながら、おんまくや土曜夜市の日以外などでは、人があまりおらず寂しい状況だ。
そこで、知事がおっしゃった、他からやって来てもらうためには、愛媛県としてどのような政策をもっているのかお伺いしたい。

【知事】

それは観光ということでもいいのかな。

(参加者)

そうですね。

【知事】

観光というのは、どこの地域でも必ず取り組むテーマになるよね。全国どこでも。だから競争も激しいですよ。そのためには、まずアクセスの整備というのが1つ重要になってくると思います。やっぱり、来やすいという環境を整える。特に四国の場合は四方を海で囲まれてる。日本の島国の中で、また島みたいな地域になっているので、そこを改善していくということをいろんな手立てをしながらやっています。特に「行きがい」ということになると、航空路線の充実について、この10年徹底的に力を入れてきました。

この数年で新しく開設した航空路線はいくつかあるんだけど、1つが沖縄ー松山を結ぶ路線。それから昨年から札幌と松山を結ぶ路線、それから鹿児島と松山を結ぶ路線、こうしたようなところにプラスして一番今搭乗率が高いのは、成田と松山を結ぶ路線、こういう路線が新たにぼんぼんぽんと開設されています。特に、この成田路線は今までとは違った航空会社で、航空会社ってのはフルサービスを提供する大手の航空会社と、LCCというローコストキャリア、徹底的にコストダウンして運賃を安くする航空会社の二分類に分かれているんだけど、成田の路線は西日本、中四国で初めてのLCC路線だったんですね。今、いくつか飛び始めていますけれども、どれぐらい安いかというと、LCCの特色は、フルサービスの航空会社というのは運賃がいつ取っても同じ、早割とかありますけれども。LCCの場合は「用意ドン」で1カ月ぐらい前から予約がスタートして、1席目ぐらい徹底的に安いんですね。1席埋まるごとに、だんだん料金が上がっていく。最後の1席は一番高くなる。こういう傾斜配分的な運賃体系になっています。成田ー松山が今片道一番最初に取ると4,990円で行けます。一番最後の席になると2万2,000円ぐらいになるかな、それでもフルサービスよりは安いです。こういうふうな路線の充実というのも国内的には図ってきました。それからもう1つは海外路線。これについては一昨年、その前に上海便があったんだけど、中国の上海、一昨年ソウル、今ちょっと国と国の間でいろいろな話が出ているけれども、ソウル便、これはLCC、海外のLCCを取ってきたんだけど、これもソウルと松山、大体時間距離でいうと松山から東京と同じぐらい、1時間半ぐらいでソウルに到着するんだけど、同じように、LCCなんで一番安い席は海外でありながら往復1万円以内で行けます。実はスマートフォンで予約を受け付けるような会社なんで、会員に入会するといきなり2,000円のクーポン券が送られてきて、第1席目を取れば往復4,000円でソウルに行けちゃうというそんな路線です。

これを活用していろんなアクセスを整備してきました。そして先月から、9年かかりましたけれども、台湾の台北と松山を結ぶ新たな路線が飛び始めています。できれば観光とは違うんだけど、みんなにもぜひ活用して若い感性の鋭い時に異文化であるとか、異言語であるとかそう

いった外国語を、言葉は別として、こういう世界があるんだというのはやっぱり早めに体感しておいたほうがいいんじゃないかなと思うので、機会があればぜひ積極的に行ってみてもらいたいなど。それだけ直接に行けるようになっていきますので、行ってもらいたいなどと思います。

さて、観光についていえば、さっきも申し上げたように、そのエリアに一体どんなコンテンツがあるのか、そしてそれをどう物語として組み立てていくのか、さらにその魅力を地域の人がみんな共有できているのかどうか。このあたりがポイントになると思いますね。例えばある地域に住んでいても、どうしても隣の庭がよく見えてしまう。そうすると「いや、うちは大したことはないわな。」という声が市民の間から生まれてくる。となると、そういうところに人は来るか、と行ったら絶対に来ない。会社でもそうです。会社に入って商品を作る。「いや、うちの商品は大したことないな。」、という会社はつぶれるんだよね。やっぱりその会社の製品に愛着を持って自信を持って、もちろんいいものじゃないといけないけども、「うちの会社はいいですよ。」っていう会社が伸びていく。地域も同じようなものだと思うんだけど、いいところに目を付ける方がどれだけいるか。そしてその良さを理解する市民がどれだけいるか。これによって観光に直接訪れる人数も結び付いていくんじゃないかなと、僕もずっとやってきてそれは実感しています。例えば、愛媛県だけ見ても観光のコンテンツは全然違うわけですよ。今、東予の東部地域でイベントをやっているけれども、あちらは、どちらかという山、山岳というものをどう生かすかということがポイントになってくるし、この今治・上島だったら、何と言っても日本で最も人気のあるサイクリングコース、と認定されたから、圧倒的に抜きん出た存在になってきているので、それをどう磨いていくのか。

松山は、昔から道後温泉や松山城があるけれども、それだけでは物足りないんで、かつて僕が市長のときは「坂の上の雲」という小説、ストーリーというものを町の中にどう組み込んでいくか、ということにトライをしました。

南予に行くと、工場とかはあまりないんだけど、1次産業の宝庫の地帯なんで、自然があるのままだに残っている。海、里、山、そういった自然のアウトドアや文化体験、古いまち並みを活用した文化体験、こういったものを磨き込むのがテーマになってくると思うんだけど、大事なことは、その地域の皆さんが本当に自分たちの町を知るという力をどんどんつけてほしい。そしてそれを共有して、発信するという空気をどんどん広げてほしい。それが観光振興、「あそこはいいらしいね」、今SNSで噂なんかばあっと広がるから、いい環境を経験した人はすぐに情報を拡散してくれるんで、そんなところも考えながら、今治そして上島の地域を皆さん自身が見つけてほしいなというふうに思っています。以上です。

【参加者】

ありがとうございました。

2. 外国人との交流施策とトラブルの未然防止対策について

外国の方々との交流について質問する。

今治明德短期大学では、留学生を受け入れているため、登下校時に多数の留学生を見かける。今治市においてもサイクリストの聖地と呼ばれている「しまなみ海道」が観光地となり、外国人観光客と交流する機会が増えている。さらに、今治市内でも外国人労働者が多くいるように感じる。

このような状況の中、外国の方々との交流しやすい政策やトラブルなどの未然防止などについての対策を県として実施されているか。また、何か計画されていることがあればお聞かせいただきたい。

【知事】

はい。海外からくる、例えば観光客ということに限定すると、観光政策が全然変わってくるんですね。例えばアジアの国々に行くと人口構造が日本と全然違って、さっきピラミッド型の人口構造が日本は昔あったと言ったけど、まさに今それなんです。若い人がやたら多いですね。例えば、そうだなあ、日本の国ってのは今1億2,000万人いるけども、その全体の平均年齢が何歳ぐらいだと思いますか。日本人の平均年齢、大体でいい。

(参加者)

30から40歳ぐらい。

【知事】

そうそう48歳なんですね。ところがインドネシアって国は2億6,000万人いるけども平均年齢は31歳。ベトナムが人口が9,000万から1億だったと思うけど31歳。フィリピンがやっぱり1億で24歳。めちゃくちゃ若い。そういう世代が圧倒的な多数を占めているので、日本以上にライフスタイルが全然変わってきて、いい悪いは別として、もうデジタル世代なんだよね。だから僕らの昔の感覚からすれば、海外から観光客が来ました。じゃあそこに対応するために大きな外国語表記の看板を作りましょう。中国語も韓国語も英語もあったほうがいいんじゃないか。これが今までの発想なんです。でも彼らはそれがいらないんだよね。それよりも、かざせば情報がキャッチできる。そういうふうなアクセスを用意するってのが、海外のお客さんを満足させるためのツールになりつつある。だけど、しまなみ海道でも今一気にやったのは、迷わないようにブルーのラインを引くという政策と、もう1つフリーのWi-Fiスポットをどれだけ整備するかということによって利便性が全然変わるので、お金もない中でやらなきゃいけないんで、目を付けたのが自動販売機だった。この自動販売機に数メートル間隔の拠点をそちらのメーカーの負担でやってくれ、と。そこに来たら何か買うよ、と。だからいいじゃないかということで、これがうまく成立して、今、しまなみ海道沿いのフリーWi-Fiってのはだーっと整備ができたんだけど、そんなことをやっていく必要性が生まれてくる。そこからSNSで拡散することでまた来る、というこの循環を今つくっています。

もう1つは留学生については、ちょっとどれぐらい人数がいるかわからないんだけど、今愛媛県に一番多く来ている国は、留学生でいえば中国、それからインドネシア、このあたりだと思います。働く人でいうと、ここ数年圧倒的に増えたというか、その国に行って道筋をみんなで作ってきたんだけど、ベトナムから来られている方が圧倒的に多くなって、今、中国よりも多くなっているんじゃないかな。ベトナム、中国、そしてまた次の段取りをしているので、これからは一部もう来ていただいているけれども、カンボジア、それから、まだ道筋をつけてないけどミャンマーとか、そういった国々からもどんどん来ていただけるようにしたいと思いますし、また今年の2月には中国へ行って、中国が介護の分野でぜひ人材交流したいということなんで、愛媛県の介護施設との技術交流も始めていくという予定にしています。働く場合は企業の経営者の感性ってのが重要になってきますけれども、我々としては、おかしな業者が中に入ってそういう働き手を連れてくるとトラブルが起こる、たまに。なんか劣悪な環境で、今治でもちょっとあったようだったんだけど、そういうものを回避するために行政と向こうの国の行政がタイアップして、しっかりとした送り出し機関と受け入れ団体をマッチングさせて、経済界のしっかりとしたフィルターの中でそういう人的やりとりができる仕組みを作ればトラブルがなくなるんじゃないかなあってことで、今そういう仕組みをどんどん作って国ごとにやっている最中です。

例えば、ベトナムだったらもうすでに正式な協定を結んで、送り出し機関と受け入れ機関がマッチングしています。カンボジアもそれができました。これをどんどん増やして行って、正規のルートというのを確立させてトラブルが起こらない、気持ちよく働いていただけるようなそんな仕組みを充実させていきたいと思っています。

学校については、これもまた同様に各学校次第、取組み次第なんだけど、その学校がどういう学科を抱えてどういう分野で人を育てるのか、育てていきたいのか、学校の方針にも直結す

るんだけど、そこを絞れたらターゲットとなる国が見えてくるから、そこであちらの国の大学とこちらと姉妹提携したり、そこから交換留学等をやっていくのであれば、行政がそこに一緒に何かお手伝いをするってことはやっています。

もう1つは働いている方、こちらに住んでいる方の対策、例えばこれは市役所がメインになるんだけど、いろんな手続きが多言語でできるように窓口を整備したり、それから大きな災害が起こったときに避難に結び付けられるような、これはまだ発展途上段階なんだけど、そこから辺のサポートを充実させていくということが行政としてやっていくべき分野だと思っています。

(参加者)

ご回答、ありがとうございました。私自身、もっと外国の方々と交流していきたいと思います。愛顔（えがお）溢れる愛媛となるよう、貢献できるように頑張ります。本当にありがとうございました。

【知事】

ちなみに何かスポーツなんかやってるの？

(参加者)

バドミントン部でやっています。

【知事】

僕もバドミントンの選手だったんだけど、その関係で、今、マレーシアのバドミントンのオリンピックの事前合宿をマレーシアまで行って決めてきて、先週は。先月はナショナルチームのマレーシアのジュニア代表が来てくれた。これからも、あと3回ナショナルチームとジュニアチームが来ますから、ぜひ交流してください。試合して勝ってください。

3. 学習スペースとしての公共施設の開放について

私たちは学習スペースを確保することに苦労している。

家庭環境などの事情やテレビやスマートフォンに気が散るなど、自宅で集中して学習に取り組むことが難しい。そういった生徒が学校以外で多く利用するのは図書館だが、今治中央図書館を例に挙げると、今治市内の中高生が利用するため、学習スペースはいつも混雑している。社会人の利用者も学習スペースを利用するので、開館前に並んで待っているといった光景もあります。特に、夏休みや定期考査期間中は、より混雑していて、そこで提案ですが、兵庫県の太子町では去年の夏から町議会の議場を夏休みの間学生に自習室として開放しているという記事があった。このような政策を愛媛県でも行っていただくことは可能か。

【知事】

そうですね。まず図書館ということに限定すると、これは大体市営の図書館になるんで、県の図書館というのは、松山市に一応拠点となる大きなものはあるんだけど、それぞれの地域ごとの図書館というのは市が全てつくっているんで、まず責任を持ってこれは現状はこうなっているように、というのを伝えるようにしておきます。

身近なところでいえば、今の例でいったら今治市議会ということになると思うけど、議会というのはなかなか市のレベルだと難しいかもしれないですね。町ってすごいこじんまりしてるから、もう顔が見える社会だから、「いいですよ」っていうふうになんかちょっと違う感覚でなされていると思うんだけど、なかなか市議会議場というのは聞いたことがないね。そのことがあるというのは頭の中に入れておきます。

それ以外に、例えば公民館であるとか公の施設で、例えば地域のニーズ、例えば皆さんが調べて、この施設って空いているなあ、この時間誰も使ってないんじゃないの、ってのを発見すれば、

すぐにアプローチしていくって手もあるんで、例えば学校の周りをみんなで調べようとかしてね、どんな施設空いているところがあるかなってのを調べて、この施設空いているとき使われないのですかっていう活動を起こすってのは高校生らしいアプローチかなって気がします。そのきっかけさえつくってくれたらそれを大人がカバーしていく、というふうにしていったらいいんじゃないかな。調査をするってのは大事だと思いますね。

(参加者)

ありがとうございました。

4. 伯方分校存続のための住まいの確保について

愛媛県の人口の流入の促進ともつながってくるが、島しょ部の学校では陸地部の学校に比べ、校区外から来る生徒が集まりにくい環境だ。島しょ部や山間部にある学校を存続させるためにもサポートをお願いしたい。

人がいなければ歴史や可能性を受け継ぐことができず、人が集まるためには学校が必要だ。伯方分校がなくなってしまうと、伯方島が衰退してしまう。

伯方分校の存続のために、今年度から全国募集を行い、私は東京、大阪、福岡の3カ所で伯方分校の魅力についてアピールしてきました。その結果、伯方分校で行った学校説明会に全国から伯方分校の魅力を知って入学してみたいという中学生が集まってくれた。しかし、寮がないために入学するのを考えてしまう中学生がたくさんいた。同じように全国募集を行った他県は県が寮の整備をサポートしていて、安心して入学させられると保護者の方もおっしゃっていた。

この魅力ある伯方分校存続のためにも、住む場所などのサポートをしていただけないか。

【知事】

まず、そもそも論で言うと、日本の人口が減っているのが一番のネックになっているんだけど、例えば一番多かったとき、1年間に日本人は赤ちゃんが270万人生まれてました。今、去年生まれた赤ちゃんは95万人なんですね。ですから3分の1ぐらいになっているんですよ。その上で学校があるとすると3分の1まで縮小してしまった全ての学校が、全部存続するというのは物理的にも、これは不可能になってきています。そんなところから小学校の統合であるとか、統合せざるを得ないというような環境がここ十数年の間続いているんですね。

実際、これはルールなんで、ある程度の人数を下回ってしまうと、学校の先生が法律で配置ができなくなって、募集停止とか、こういう事態になってくるけど、法律上そういうルールになっているんで、これを県のほうでは機械的にやれないんで何とかならないかということ議論してきたんです。

1つ、数年前から導入したのが、一定の定員割れが3年間続いた場合はもうどうにもならないだろうと。でも、その間に1回でも一定の定員に達してくれたらまた3年OK。こういうルールにしました。実は今年度というか昨年度、これで募集停止ぎりぎりのところにきてたのが大三島分校と中島の松山北高の中島分校の2校だったんです。地域の皆さんにも話をしたり、また向こうからの相談もあって、ともかく成功したところもたくさんあるんですね。例えば、長浜高校なんてのも本当にぎりぎりのところまでいっていたんですけど、これは在校生の活躍によって、今、増えちゃったんですね。水族館部ってのが活躍して、世界大会で入賞したら「ああいうクラブやりたい。」とってうわっと来始めて、学校の魅力をPRしてきたと言われたけど、そこが本当に大事なんです。この学校はどういうところに魅力があるのか、しかもその魅力は学校だけではなくて地域としてこんな受け入れ方をしているんだ、というところが上に乗かってこない、なかなか外から人が来てくれない。

例えば、これは小学校の例なんだけども、僕は松山市の仕事をしていたときに、五明ってと

ころの山の奥の学校が廃校になるぎりぎりのところに来ちゃったんですね。「ともかく皆さん自体が、五明じゃなくて日浦小学校ってのがあって、地域の皆さん自体が本当にこの学校を存続したいと思う姿勢をまず確認してくれ。」ということで、その地域全員が町内会費の上に数百円ずつ子どもたちの受け入れ会費を上乗せして、それを財源にしようとか、いろんな動きが出始めて、森林で山だったらそれを売りにしようってことで、緑の少年団に徹底的に力を入れて、森林教育とかいろんなことを始めたんですよ。そのときは松山市だったんで、「市として何がしてほしいの。」って聞かれたんで、山の上なので市内から通学できるバスが欲しい、交通手段が何とかならないかって話があった。これは実は市だけの財源ではできなかったんで、民間の企業にも働きかけたら、金融機関の方々が十分使える中古のバス、大きなバスを寄付してくれたんです。それを市のほうで整備して、今それを使って市内からどんどん行って、今は地元の子供が例えば10人だとすると、校区外が30人とか、そんな学校になっています。「あそこはいいよ。」「地域で受け入れてくれるよ。」っていうような噂が噂を呼んで、毎年安定して校区外から生徒さんが集まってくるようになったんです。

これは高校でも同じだと思うんだけど、やっぱり「あの学校はいいね。」っていう情報、魅力の磨き込みと情報発信というのがまず1つ鍵を握ると思います。その上で足らざるところで、これをすれば確実だっということがあれば当然のことながら、県のほうでも考えられることがあるんじゃないかなあと思うんで、ちょっとこれ学校現場のことなんで教育員会に意見をもらって。

(高校教育課長)

全国募集をするにあたってはそれぞれの市、町と連携して住む場所であるとか、食べるものも確保した上でお願いしているというのが今のところなんです。ただ、島しょ部につきましてはなかなか住むところがないというところで、大三島分校あたりもずいぶん苦労されているということは承知しております。そんな中で、例えば久万高原町は町営の寮を建てるとか、他の市や町でもそういった動きがあるので、さらに地域とつながったやり方、例えば空き家を利用するであるとか、そういったことも考えていただくというのが地域で発案されてきたらありがたいなと思っております。以上でございます。

【知事】

例えばその島の中に使っていないしっかりした躯体のある建物とかがあれば、例えば、それを学校のほうから今治市にやってもらって、そうすると今治市のほうから「地域の定着のために考えるから県もいっしょにやってくれ。」っていう話になれば動きやすいんで。何かないのかな、場所。空き家なんか活用できると思うけどね。

(参加者)

宿泊施設があるんですけど。

【知事】

空いているの？

(参加者)

学校の先生とかがいろんなところに交渉してくれて、旅館ならあるんですけど、食事の提供が難しいと言われました。

【知事】

食堂がないのね。

(参加者)

昼は給食があるんですけど、朝と夜の食事が。

【知事】

なるほど。ちょっとすぐに、今、この場でいいアイデアが浮かばないけど、去年、中島分校と大三島分校の関係者の皆さんには、ともかくこの1年クリアしてくれと。クリア1年してくれたらまた次の3年間の準備期間ができるから、募集もできるんで頑張ってもらいたいって、割と今

回多かったんじゃないかった？

今の課題というのは今治に伝えたいと思っています。

(参加者)

ありがとうございました。

《補足説明》〔企画振興部〕

県では、市町と連携して、移住者向けの住宅改修支援事業を実施しており、現在、制度の見直しを検討しているところです。

5. 愛媛の自然の豊かさを利用したPRについて

観光の話になるが、僕はこの愛媛県の魅力は自然の豊かさというところにあると思う。それで、愛媛県では一体どのような自然を利用したアピールをされているのかお伺いしたい。

【知事】

冒頭申し上げたように、東予・中予・南予で雰囲気は全然違うんだよね。特に東予の島しょ部と南予については自然が非常に色濃く残っているところなんで、逆にいえば、皆さんがどれぐらい地元において、地元にいると灯台下暗しで当たり前と思っちゃうんだけど、実はそれがとてつもない価値を持つわけですよ。

かつての松山市の仕事を振り返るんだけど、中島町という5つの島を合併した経験があります。そのときに島の皆さんは、「もうこれで吸収合併されたから、島も終わりや」という雰囲気だったんだけど、「そうじゃない。」と。「むしろこのピンチをチャンスに変えようよ。」と。一緒になったことによって情報発信力が格段に増す。やめようといっていたトライアスロン大会も、いまだに大気分で存続していますし、それから、修学旅行のコースにこの中島町を活用しようということ議論して、広島まで修学旅行って1泊なんだよね。ところがあの当時、年間松山市ですら修学旅行は4校ぐらいしか来てなかった。あまりそれを積極的にやってなかった。それはコンテンツの磨き込みだということで、広島まで来ているのに着目して、そこから広島から船に乗せて中島に入ってくる。そこから松山というコースを提案したの。ターゲットを絞り込んで、都会の学校に集中すると。なぜならば、彼らは船すら乗ったことがない。海で遊ぶという経験もない。だから、我々にとっては当たり前の交通手段である船に乗るってことが、どれだけ彼らにとって新鮮なことか。それはこちら側にいるとわからないんだけど、とてつもないことなわけなんだよね。それで船に乗って、かつ、途中の行ったこともない島にその船が接岸する。そのとき、中島の子どもたちにちょっと力を貸してくれと言って、幼稚園児が都会の学校の高校生が修学旅行で中島に着くと、港で旗を振って「いらっしやい。」「いらっしやい。」「いらっしやい。」ってやってくれるわけ。そこで大歓声上がるんだよね。(船から)上がると山のコースと海のコース分かれて、山はみかん狩り体験をして、海は地引き網体験、それで一緒になってまたご飯を食べて、今度はその船に乗って松山に向かうんだけど、その時もまた幼稚園児が出てきて、今やっているかどうかわからないけど、あの当時は紙テープでお別れする、あれを中島港でやって、子どもたちが手旗を振って「お兄ちゃん、お姉ちゃん、また来てね。」って大声で叫んで。そのとき1回見に行ったら、甲板に出ている都会の高校生がもうボロボロ泣いているわけ。これはいける、と。題して「二十四の瞳大作戦」と名付けて、大々的にやり始めたら、今はもう年間100校ぐらい来ているんじゃないかな。そういう島の特色を生かしたやり方というのをやったことがあります。これはまさに自然を活用した1つの事例だと思います。

今、東予のほうでやっているのは山。これもね、地元の人はいらない知らない。東予東部の地域の山っていうとまず思い浮かぶのが石鎚山。1982mの高さは西日本で一番高い山。まずこれが

売りになる。かつ「石鎚山登ったことある？」あ、いないんだ。これはすごいんだよ。朝行って、1日であんな空間に行けちゃうって。西条側から登るルートと久万高原から登るルートがあるんだけど、何が他と違うかという、鎖を登っていくんだよね。こんな輪っかでこんな鎖がどぼーんどバーンと4本垂れ下がっていて、チャレンジ精神のある人はその鎖をよじ登っていく。全く未知の体験で、もちろん「あそこはちょっと」という人は迂回路で普通に登山ができるんだけど、そこで登りきったところに圧巻の風景が待っているわけ。その石鎚山の宣伝をじゃあ地元の人がどれだけやっているのかといたら、本当に少ないんだよ。

隣の新居浜市に行くと、今度は西赤石山系っていうところがあって、ここは、昔銅が採れた山で、江戸時代、徳川幕府の時代にその銅を自分たちに掘らせてくれて名乗り出たのが住友家という大阪の大きな事業家だった。そして許可をもらって徳川幕府から下ろされて、その後280年間銅を掘りまくるんだけど、明治時代になって近代化が進んだときに、日本の国に株式会社ができる。この銅を掘っていた住友家がつくっていた会社がいくつかあって、銅を売るためにつくった会社が住友金属鉱山という会社。その銅を化学処理して硫黄分とかを除去するためにつくった会社が住友化学という会社。出てきた銅を運ぶためにつくられた会社が住友重機械工業という会社。銅を掘っていたら山が丸裸になったので、それは大変だ、っていうんで100年前に環境事業をやろう、というんで植林を始める。このためにつくられた会社が住友林業という会社。これらの会社は超ビッグな会社になって世界中に進出しているけれども、その誕生した場所は新居浜の別子銅山なんです。ここを登山すると、その当時、山の上に1万7,000人ぐらい住んでいた。1万7,000人が移動していくという、そういう時代だった。おかげさまで住友グループのおかげで、当時ここには、こんな風景があったんだって登山道に写真パネルがだあと並んでいる。例えば山の上に4,000人収容の公会堂があったり、何千人という小学校があったり、大病院があったり、その当時の写真を全部パネル展示して登山道を歩きながら見れるようになっている。歩いていると登山道のところに2つの溝があるんだけど、「これ、何やねん。」って聞いたら、日本で初めてのレールだっていうわけ。当時、銅を運ぶために最初は人力で、次は牛車で最後は蒸気機関車で運んでいたんだけど、牛車を楽に動かすためにはレールが必要だと。しかも溝を掘っただけなんだけど、その溝こそが日本で初めてのレールだったという価値ある登山道なわけ。これを新居浜の若い人たちに聞いて、みんな毎日見ているんだね。西赤石山系。「登ったことのある人。」って聞くと50人いたら8人しかいなかった。そんなもんだよね。

四国中央市に行けば翠波高原とかまた別の魅力ある山々があって、こうしたさっき言ったようにコンテンツを探り当てて、物語をどう組み立てるかによって見違えるような空間になるってことで、しまなみ海道だって宣伝するとき、ただ単に世界の自転車っていったってピンと来ない。僕らが言う時は、まず「何よりも来島大橋ですよ。」と。「あそこは海拔80mの日本で最も高いところから見下ろせる姿、サイクリングしながら止まって下を見下ろせる風景は圧巻でっせ。」というわけ。しかもこの今治と上島地域は造船、海運の集結地だと。造船は日本一大きな会社もあって、得意分野の違う様々な造船会社が14社あって、しかも海運については日本全体の船、外航船の保有隻数は愛媛が日本全国の約40%を占めています。その証拠に、この80mのところから見下ろすと、大きな大型のタンカーが足元を潜っていたり、あるいは貨物船とかが入って、それを見て船が醸し出す白波を見て、「この船は遠く南半球まで行くのかな」「アメリカに向かっていくのかな」と世界に目を向けられる空間でもあるんだと。そして右のほうを見たら全く別世界だと。ここは村上海賊の歴史がある近世、中世の歴史の宝庫なんだと。「村上海賊の娘」なんかちなみに読んだことある人いる？もったいないなあ。面白い。泣いちゃうよ。そういう村上海賊の娘が織田信長軍と戦って、娘一人が突っ込んでいく。それに呼応して男どもが「行くぞー」と言って、いいことじゃないんだけど、水軍の歴史を刻んでいくんだけど、そんな中世の城の跡とかが残っているわけよね。そういうのをトータルで話していくと、これは行かなきゃ、というふうになっていくんじゃないかと僕は思います。

南のほうに行くと、南予はそれこそ海がこちら側と違って、宇和海ってのは全く違った海に見えます。太平洋に近いからとれる魚も全然違うし、愛南町って一番南のあたりに行ったらサンゴが海中の中に生息しているんで、そこを今、シーウォーカーっていってこういうのをかぶって水中散歩するイベントが始まっていたり、それから松野町というところへ行くと、日本で最も楽しいキャニオニングが体験できるんだね。キャニオニングってのは川とか渓谷を使って、例えば滝つぼダイビングしたり、天然の滑り台でドカーンと飛び込んだり、そういうアウトドアスポーツなんだけれども、今、県外からたくさん来ています。それはなぜかという、一番上に行くと雪輪の滝ってのがあって、40mの天然のスライダーが待っているんで、それを一気に駆け下りて滑って、滝つぼにダイビングするんだけど、大人気で、世界中からも、今、韓国人も来るようになって、そういった自然を使えばいろんなオリジナルな魅力も見つかるんじゃないかなと思っています。

(参加者)

お答えいただきありがとうございました。

6. 遍路文化を無形文化遺産として登録を目指すことについて

四国八十八ヶ所霊場と遍路道の世界遺産登録については、当然各地のお寺が現代風に改築されたり、元の状態に戻さなくてはならなかったり、遍路道も昔とは異なったものになっている場合もあるので、元の状態に戻すには工事費や土地の所有権など、かなり遠い道のりになると感じている。

私は今治ユネスコ協会に所属していて、昨日、平和の鐘を鳴らす式典に参加した。会場である南光坊は八十八ヶ所の1つで、空襲により一部以外全て焼け落ちたそうで、その空襲のことも伝えたり、1000年以上続く歴史的に価値のある遍路文化も後世に残し、世界中の人たちに知ってもらうために調べたところ、去年は、ナマハゲ、和紙とか和食などの無形文化遺産というものを見つけた。

建物や遍路道ではなく、回遊型の巡礼を行う慣習やお接待などの遍路文化を無形文化遺産としての登録を目指すことも方法の1つであると考えているが、知事はどう思われるか。

【知事】

そうですね。お遍路さんというのは、何も完璧に昔の姿に戻さなければ絶対だめ、というものでもないんで、四国4県で取り組む共通の課題としてはとてもいいことだと思いますね。

四国4県って、意外と四国は1つといいながら、結構ライバル意識があったり、あまり一緒になって取り組むということがないという過去があるんだけど、こういったテーマだと四国一丸となってやろうという今までにないエネルギーがつけられ始めているので、ぜひこれはトライしていいんじゃないかなと。四国遍路自体もそういう意味ではお大師さん、空海がひらかれた道だけでも、その形というもののだけが評価されるものではなくて、1000年以上の歴史の中で培われてきたまさにお接待の心であるとか、今までのおもてなし文化の定着であるとか、こういうものを全部をひっくるめて世界遺産ということになるので、大いに僕は自信をもっていったらいいんじゃないかというふうに思います。

無形文化財というのもあるけど、お遍路さんぐらいになるとさらにその上でもいいんじゃないかな、ということを目指していきたいなと個人的には思いますね。例えばお遍路さんのいいところってその土地土地にお寺があるでしょう。そのお寺ごとにいろんな物語があるので、やっぱりそういうのを同じように磨き込んでいくことが大事かな。例えば、僕だったら実家が53番札所の隣なんだけれども、子どものころは白装束のお遍路さんが来ると、誰しもが当たり前のように「どうぞ。」ってお接待するのが当たり前の文化だったわけ。そこから発想したのは、この四国、当時

は「愛媛は日本で最も思いやりに満ちた場所なんです。」ってよく言っていた。なぜならば、お遍路さんというのは、今は観光で来る方もいるけれども、当時のお遍路さんっていうのは本当に人生に挫折した人、絶望した人たちが最後の心のよりどころとして歩いてきた歴史なんですよ。ですから、そういう方々を当たり前のようにお迎えする伝統ってのは、本当に人間の優しさ、思いやりから生まれたんだと。だから、ここは日本一素晴らしいってことをよく言っていたんです。それが証拠に京都の寺に行ってみなさいと。京都のお寺でお賽銭を渡すと「ありがとうございます。」という言葉が返ってきます。これはお金をいただいたら「ありがとう。」という商売だと。でも八十八ヶ所は「ありがとう。」ではないんだよね。お布施を渡すと何て返ってくるかというと、「ご苦労様です。」って返ってくる。ここが違うんだとか言ってよく宣伝していました。

あと面白い話は、松山に石手寺があって、ここにはいろんな伝説があるんだけど、ある時河野一族、河野水軍、ここは村上水軍だけど、河野水軍の末裔が衰退して愛媛県の田舎のほうに減封されちゃったんだよね。で、庄屋さんをやっていたんだけど、とんでもなく評判が悪くて、ある時その家の前にお坊さんが立ってお経を唱えた。それを「いねや。」って石をぶつけて叩き出した。そしたら、その庄屋さんの家に8人の子どもがいたんだけど次から次へ病におかされて亡くなった。これはきっとあの時の自分の振舞いが不幸を招いているんだって、そのお坊さんに謝罪をするために歩き始めたわけ。八十八ヶ所四国中どこにいるかわからないお坊さんを捜して歩いて、見つからない。2回目は逆側から歩いて、これがお遍路さんの初めての逆打ちなんだよ。第1号。最後は5回目を回った時に徳島のお寺で病で倒れてしまった。そこで倒れて寝込んでいる時に、お坊さんがやってきて、「そなたは許されているから安心をしなさい。何か願い事はあるか。」といった時にその没落した「河野家の復興を。」とあって息絶えた。しばらくして、その家の、松山の地方のところに赤ちゃんが生まれるんだけど、その赤ちゃんが不思議なことに手が握られて開かない。その近くのお坊さんに相談しに行ったら、「あそこの川に行ったら手を握れば開く。」っていうふうになんか言われ、連れて行って川に入ったら開いたら、そこに「〇〇家復興再来」って書かれていたという伝説が残っています。その結果、石手川っていう名前が付けられた。実際にこの「再来」という文字が刻まれている石は石手寺にまつられているわけ。そんな話をうまく組み立てると、いろんな魅力というのが増していくんで、お遍路さんにはそういう物語はどこのお寺にでもあると思うから、堂々と世界遺産で出していきたいなというふうに思っています。

(参加者)

ありがとうございました。

7. スポーツを通じた国際交流の取組みについて

今剣道をしているが、先日、愛媛県武道館で愛媛県と韓国で剣道の交流会があった。愛媛県はサイクリングが有名と言っていたが、サイクリング以外のスポーツを通して国際交流するために、愛媛県がどのような取組みをしているか教えていただきたい。

【知事】

まず、スポーツってのは武道も含めて、それぞれやる人にとっては種目は違えども、「やる楽しさ」ってのがまずあります。それからもう1つは、「見る楽しさ」ってのがある。それから「応援する楽しさ」ってのがあるよね。もっと突っ込んでいくと、支える、「支援する楽しさ」ってのもある。スポーツってのはただやっている人たちの楽しさだけをもたらしものではなくて、いろんな裾野が広がることによって多くの人たちを道は違えども楽しませる力をも持つ。そして人をつないでいく力を持つものではないかなあというふうに思っています。

それを一気に開花させるために、県の僕の前の方知事さんからもずっとやっていたんだけど、

国体を何とか愛媛県でやりたいということで、2年前にえひめ国体と障がい者全国大会を開催するに至りました。このえひめ国体・えひめ大会ってのは、ある意味では数年がかりで準備をするので、できるだけ既存のものを使いながら、節約もしながらだったんだけど、あらゆる競技の設備が整いました。国際大会は難しいかもしれないけど、全国大会には対応できるようなそういう設備が種目ごとに整えられたのが1つのレガシーになっています。

もう1つは、ボランティア、応援する方々が大勢いらっしやったんで、やっぱり「支える楽しさ」ってのもあるんだなあということを感じた人たちがものすごい増えたということです。こういうのもレガシーになったと思います。例えば四国中央市と西予市と宇和島市と、もう一箇所はどこだったかな、民泊をやってくれたのね。泊まる場所がないんで民泊をしました。最初はみんな「民泊は大変やなあ。」って言いよったんやけど、例えば西予市が相撲の競技だったんで、全国の巨漢たちがわんさか押し寄せてきて、それをホテルがないので各家庭で引き受けて民泊をずっとやった。最初はぶつぶつ言っていた人たちが、もう楽しくて楽しくてしょうがないと。突然行ったら、「いや、大変だよ。」って笑いながら言うんだけど、「巨漢を3人、うちは泊めているんやけど、『冷蔵庫のものを勝手に食っていいぞ。』って言ったら、翌朝すっからかんになっていた。」とかね。そんな大食漢たちがいろんな思い出をつくってくれたんだよね。普段表に出て来ないじいちゃん、ばあちゃんが、自分の近所に泊まっている子どもたちと仲良くなって、その県の選手が出る時には太鼓を鳴らして元気に応援していたり、「よみがえった。」とか話している。そんな時に、1年後、西日本豪雨災害が発生したんです。相撲の会場がやられました。それを見て全国ニュースを見た選手たち、いろいろな県の選手たちが民泊をさせてくれた人たちが、苦しんでいるからといってボランティアで各県から集まって、撤去作業の手伝いに来てくれたり、そういうものが生まれていくんだよね。だからスポーツってのはいいなあというふうに改めて思いました。

一昨日の剣道の大会でも、今、日韓の問題がいろいろあるけれども、それは冷静な人たちのほうが圧倒的に多いんですよ。向こうでも、昨日ソウルの街で日本の製品を買わないって旗を掲げたら、韓国のソウルの人たちが「観光するのに来てくれる日本人だっただくさんいるんだから失礼じゃないか。」って抗議に殺到して、一日で撤去されたり、とそういうものなんだよ。だから過激に煽る人も来る人たちのグループもあると思うけれども、冷静に見つめていくってのは大事。そういう中でスポーツ交流なんかはそれを超えて、一昨日インチョンの選手団64人来県してみんなと試合をしてくれて、とってもいい光景だったと思います。ところでどっちが勝ったの？

(参加者)

愛媛県の東予が勝ちました。(成年の部は中予軍が、少年の部は東予軍が勝った。)

【知事】

勝った。本当。下馬評では韓国のほうが強いついていっていたんだけど頑張ったんだね。そういうことで、今それが終わった後、レガシーを生かしてさらにスポーツを進化させたいなあという思いがあるんで、いくつかいろんな取組みをしています。それはオリンピックの事前合宿を誘致する。それから「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」を4年前から立ち上げているんだけど、小中学生を対象に「アスリートの道を目指したい人集まれ。」といって、大体毎年3,000人ぐらいトライするんだけど、ここはもうしょうがないんだけど、体力測定して1次審査で500人、さらに実技テストをやって、最終的には50人ぐらいに絞って、その50人を対象に最長5年間、アスリートの指導をします。基礎トレーニング、いろんな種目への挑戦、最終的にどれを選ぶかは自由なんだけれども、その特性を生かしたら、この種目に挑戦したら全国トップまで出られるよとか、あるいは世界に行けるよというアドバイスをします。それを選ぶ子もいれば「やっぱり、でもこっちの競技のほうがいいや。」ってほかの競技に行っちゃう子もいるんだけど、その中からすでに4人ぐらい、種目別の全国選抜に抜擢され始めているので、やがてこのうち「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」から育つ子がいろんな競技で活躍し始めるんじゃないかなというふうに思っています。

いずれにしても、もう1つはオリンピックの誘致について言えば、さっき言ったマレーシア、まあ自分が協会の会長やってたんでなんとかしなきゃあ、ということでまずマレーシアのバドミントンが来ました。それから、今、台湾からマラソン選手、明日日帰りで台湾に行ってくるんだけど、パラリンピック競技の調印をします。柔道とかいろんな競技が台湾から来ると思います。それから、西条市ではオーストリアのクライミング、これは国体で作った施設があって、これで事前合宿をしよう。新居浜市では、ちょっと今国の問題があっとうまく進んでいないんだけど、サウジアラビアの重量挙げ等々、その他にもまだいろんな市ごとにやっているものもありますので、もう1つ決まったのがアフリカのモザンビーク、これは様々な種目、今来てくれている人、選手がいますが、愛媛県でやる。なんでアフリカのモザンビークやねんという疑問があるかもしれないんだけど、実は松山市の仕事をしていた時に、毎年転勤の時期になると年間200台ぐらい放置自転車が、ほったらかしにされる自転車が発生した。今まではずっと処分してたんだけど、ある民間の方が「その自転車、譲ってくれないか。」と。「何に使うの？」っていったら、「アフリカのモザンビークに持っていきたい。」と。「輸送費は自分たちで何とかかき集めます。」と言うんで「それはいいことですね。」っていうんで全部提供したんです。今まで700台送った。モザンビークってのはそれまで内戦が続いていて、ようやく内戦が落ち着いた段階だったんだけど、銃が市中に出回っている。だから非常に危険極まりなかった。そこでこの松山市から提供した自転車を平和運動につなげようということで、モザンビークまで持っていった後、銃と交換というプロジェクトを立ち上げたんです。だから六百何十丁の銃を回収することができた。そういった平和に結びつけるような事業をずっと十何年民間の方が一生懸命やってくれたんで、モザンビークから「できれば、東京オリンピックを目指す選手がいるんで、事前合宿は縁のある愛媛県でやりたい。」っていうお話があっって受け入れを決定したという経緯があります。だから、こういういろんなところがつながっていくので、ぜひ剣道でも大事につながりを強めてください。

(参加者)

ありがとうございました。

8. 大三島分校を存続させるために必要な下宿先の確保とエアコンの整備について

大三島分校は全校生徒80名のすごく小さな学校だ。

今年の入学生が31名を超えていないと、廃校というとても厳しい現実に見舞われた。でも、私たち大三島分校生はもちろん、地域の方々が協力してくれたおかげで、定員いっぱいの40名の生徒を迎えることができ、廃校の危機はいったん回避することができた。県外からも3名の方が入学してくれた。これは私たちが東京や大阪などに行って学校の魅力とか私たちの生の声を伝えたからだと思う。9日にあるオープンキャンパスも、県外から10組の方が来られる予定だ。

だが、私たちがどれだけ頑張っても、全国募集をしても、どうすることもできないこともたくさんある。例えば下宿先について、大三島分校は寮がないので、下宿生を各家に泊らせてもらうという形で、地域の方々が協力してくれているからできているが、大三島も総人口が多くないので下宿先の数が足りていない。大三島分校に入学したいと言ってくれている方がいても、下宿先がないのでは話にならない。県外の方でも安心して来られるためにも下宿先が必要なので、愛媛県が所有している空き家を大三島の下宿先にしてくれたらとてもうれしい。

また、大三島は少子化がとても深刻で、島にある小学校とか中学校の1学年の生徒数は1学年20名程度なので、島の子が全員分校に入学しても学校を存続させる基準を満たすことはできない。31名という基準を変えることはできないか。

また、私たちは38度の教室で授業を受けている。今年度中に3つの教室にだけはエアコンが付くと聞いているが、授業を受ける他の教室にもエアコンが欲しい。これは全校生徒の願い。

【知事】

これも教育委員会のほうから後で答えてもらいますけども、まず下宿先っていうもの、宿舎については先ほどの伯方と同じになると思うんで、これは本当にこういう声があるというのは教育委員会に何か対応策があるのかどうか練ってみたらどうかなあとと思います。これが1点。これは今治市も引き込まないとどうにもならないんで、そういうことだと思います。

基準については僕は法律的な問題は分からないんですけども、これも後で答えてもらいます。エアコンについては、今、県立高校全部の普通教室に設置することが決まっていますので、ちょっと待ってください。

（高校教育課長）

まず基準についてですけども、この基準は先ほどから知事が申し上げている「チャレンジシステム」というルールを本県で決めて設定しているものであります。中島、同校の場合には、離島であるということで20人という基準になっております。この基準は同じように伯方分校さんもそうですし、他の学校も同じですから、その基準を変えたとしたら、何らかの教育委員会などの協議が必要になってくると思います。ただ、これまでの基準で分校になったりとか募集停止になってる学校がある中で、どのタイミングで変えていくのかっていうところの議論が必要だと思うんです。また、これから先、これまでの基準どおりでずっといけるのかということ、これも、今、教育委員会の中で議論しているところでございますので、引き続き検討を続けたいと考えております。

【知事】

今の話を聞いていると、じゃあこれまでの基準で分校だということ、基準を下ろすんならもう1回やらせてくれっていうようなところも出てくるかもしれないので、そこをどう調整するのかっていう課題も一方で出てくると思うね。

それから、今後の人口動態がどうなっていくかっていう分析でどうするかっていう定員全体の問題も出てくるので、なんせ、今全国的にさっき言ったように人口が減っているという状況ってのは、どこの国も歴史上経験をしたことがないんですよ。これだけ急速に人口が減少するっていう社会って、人類史上経験した人がいない、という。とてつもない僕らの世代よりもみんなの世代はチャレンジしていかなきゃいけないんで、それを何とかカバーするように、今、一生懸命考えてはいるんですけども、これから人口を増やすためにはさっき言った3つの方法プラスひょっとしたらどんどん海外からも移住者が増えていくような世の中になっていくのかもしれないし、これはもうちょっといってみないと見えてこないなあと思うんですね。

そしたら人が増えれば当然学校も必要になってくるんだけど、じゃそれを日本社会ってそういう経験がないから、全体としてどこまで受け入れるのかってのもまだ未知数だと思うんで、いろいろなチャレンジをすることが多いですね。

（高校教育課長）

もう1つは、住む場所のところについてはいくつかいろいろなところからご連絡をいただいているんですけども、学校とか後援会のほうで今治市との協議も進めていただいていると聞いています。そういった形で市のほうも相談に乗っていただいているとのことですのでその様子を見ていきたいと考えております。

【知事】

エアコンの計画も、もうちょっと詳しくお話してください。

（高校教育課長）

エアコンについては、まず、今年度普通教室全教室、年度内に入れていくというところがございます。それからそれ以外の特別教室については、まずエアコンを必ず置かなければいけない教室かどうかということの確認から入ると思いますが、何年かかけて100%目指してやっていくと

いうこととございます。これから調査が始まるという段階です。

【知事】

普通教室は何年で完了するの。

(高校教育課長)

この1年。

【知事】

この1年で完了する。待ってて。

《補足説明》〔教育委員会〕

同校の学生寮については、地域の「大三島分校振興対策協議会」が主体となり、市の教職員住宅の一部を借り入れ、生徒宿舎として整備する動きがあります。

9. 学生の県内就職への取組みについて

私は今年度就職を控えている3年生で、就職のことと関連付けて話したい。

今年の工業高等学校に来た求人は、昨年と比較して県内・県外ともものすごく増えていて、県内はいつも1人のところが3人になっていたり、県内からの人の需要というのは加速している。

新卒で就職する人に対して、県内で就職することのメリットなどアピールすることができたら、人口の流出を防げるのではないかと。松山市は物価が安い、通勤時間が短いランキングが高い。そういったことをアピールすることができたら、普通科の人は県外の大学へ行っても県内に帰ってきて就職をする方が増えるのではないかと。

これについてご意見をお伺いしたい。

【知事】

本当に愛媛県ってすごく暮らしやすい県だと思います。僕は東京で就職して海外にも行ったんだけど、本当に愛媛県が、外に出たから余計わかるんだけど、恵まれているなあと思いますね。

数字的なデータも今言われたとおりいろんなデータがあって、例えば県庁所在地で物価が2番目に安いのが今言った松山市ですね。通勤時間が一番短いのは愛媛県。余暇時間が一番長いのが愛媛県。それから住居費、家の家賃が日本で最も安いのは愛媛県。そういう意味ではすごく恵まれている。かつ、東北なんかに行くと、夜、外に出たら凍え死んじゃう、そんなことも全然ないし、食べ物がものすごい豊富なんです。よく愛媛県は代表的な郷土料理がないじゃないかって言われるんだけど、なぜないかって言うと、食材が豊富すぎる。郷土料理ってのは食材がなかなかないところ、限られた食材で少しでもおいしく工夫しようってのが郷土料理ってパターンが多いんだけど、愛媛県は考えてみたら、ちょっと行けば魚はとってこれる、山へ行けば山菜が採ってこれる。里の幸も豊富にある。何でもあるんだよね。特に、食べ物について言えば柑橘の生産量日本一、キウイフルーツの生産量日本一、裸麦の生産量日本一、シイタケが3位とか、やたらめったら全国シェア持っているものがあるし、それから肉についても、豚の生産量は中四国で一番だったり、食材で提供できないものがないってのはものすごい恵まれた地域の要素だと思います。

例えば、都会なんかに行ったら通勤時間なんかは満員電車で揺られて1時間半なんてのは当たり前だし、寒々とした風景と薄っぺらい人間関係と、幸せって何なんだろうなってことを最近考える人が多くなってきているんじゃないかというふうに思うのは、4年前、県外から愛媛県に移住してくる人は年間270人ぐらいだったんです。でも、いろんなアプローチもしているん

だけれども、昨年、1,700 人まで増えました。6 倍です。その中には、もう都会の生活はいいやと。愛媛で就職したい、とかあるいは1次産業にチャレンジしたいって人が激増している状況にあります。今治地域もかなり移住者が、もちろん人口は減っているんだけど、外から来る人が増え始めているので、そういったところを地道にやっていったらいいのかなと思います。

起業家も増えてきて、例えばしまなみ海道がああいう形で全国からのサイクリストに注目されるようになると、じゃあお店を出すことにチャレンジしようとか、今、島の中にホテルができた、いろんな動きが始まっているので、少しずつそういう効果が出始めているかなあというふうに思っています。

新採の皆さんには、どんどん今言ったような情報を提供していますし、それからいったん県外に出てしまった愛媛県出身の学生さんについては、一旦帰っておいでと。どうせ故郷に帰ってくるんやろと。帰ってきた時に参加できる就職説明会を準備しておくから、それに出席することを条件に、交通費を一部支給する制度を立ち上げたり、そんな工夫もしています。

それから、そもそも県内にどんな企業があるかをあまりにも知らない若者が多いと思うので、こんなのを作ったんですよ。「愛媛のスゴ技データベース」。これは愛媛県で全国を相手にあるいは世界を相手に頑張っている企業のデータブックなんだけど、意外とものを、エンド製品を作っていないからその社名を知らないっていうケースが多いんですよ。でも技術力があって、すさまじい活躍をしている企業が、たくさん中小企業の中にも、愛媛県にはあるので、特に東予地域は宝物のような空間で、四国中央市ってのは紙パルプ関係の企業が集積していますからね。人口8万で年間工業生産額が大体7,000億円あります。ちなみに、四国のある県は県全体で6,000億円です。たった8万の四国中央市1市で7,000億円毎年生産しています。隣の新居浜市が人口12万で8,000億。隣の西条市が人口がやっぱり11万で8,000億、この今治が海運・造船・タオルが中心になるけれども、人口16万で1兆というとてもない工業力を持っています。中核企業ってのは当然あるんだけど、そこを支える技術力の高い中小企業もたくさんあって、例えばここにはそういった企業が全部出ているけど、そうだなあ、例えばここにこんなゴムの製品を作っている会社が出ているんだけど、この会社は日本の自動車に使われるゴム部品の製品のほとんどのシェアを持っています。東京にある東京ドームっていう野球場の屋根もこの会社が全部作りました。でもエンド製品を作っていないから知られてない。ここに、変わった形の部品が掲載されているけど、これはこの会社は宇宙船はやぶさの部品を作っているメーカーです。これは四国中央市の会社なんですけど、サッシを作っているんだけど、どこのサッシを作ったのかというと、東京スカイツリーのサッシは全部この会社が作りました。これは新居浜の会社なんですけど、歯車みたいなもんを作っている。これは何だと言ったら、建設機械をこう動かすときに、歯車のギザギザによって減速機って言うてるんだけど、パワー出すようにそういう建設機械の部品を作っているんだけど、油圧ショベル部品の世界シェア30%ぐらいをもっています。売り先はキャタピラーとかコマツとか大手の会社に売っています。

ちょっと変わったところでは、これは南予の会社ですけど、みんなも使ったことのあるパーティーラッカー、パンパンパンっていう、これは愛媛県に2社あるんだけど、この2社で全国の7割のシェアを占めています。それから全国どこへ行ってもホテルに泊まると歯ブラシとかが置いてある。アメニティグッズ。これも南予のほうに2社あって、2社で全国シェアの7割を持っています。それとかお茶パック、こういうティーバッグ、これも東予に2社あるんだけど、この2社で7割ぐらいのシェアになっています。

そういう会社はたくさんあるので、中には世界でも勝負しているから、こういう会社があるんだってことを知れば社会に出る時の選択肢がすうっと入ってくるんだけど、知らないから、会社ないんじゃないかなとって都会に行っちゃうというパターンもあるので、今は中学生のころからこれを学校版に改造して、地域の企業を知ろうというそういう取組みを今強めています。2年前から中学3年生以下を対象に、ちょっと皆さんは間に合わなかったけど、新たな職場体験を始

めています。5日間やるんだけど、その会社を職場体験することによって、将来就職の候補に結び付けばなあという願いも込めてやっているんだけど、ちょっと格好いい名前を付けました。「ジョブチャレンジU-15」という名前で、今年から全校に拡大する予定にしています。これまではモデル的に東・中・南予でやっていたんだけど、非常に評判がいいので、企業もぜひ受け入れたいというところが今、千何百社になってきたんで、若い時にその素晴らしい企業の存在を知ってもらうことによって選択肢に入ってくればなあ。それによって流出を食い止めたいなという思いを込めてこんな事業をやっているんで、紹介させてもらいました。非常にいいアプローチだと思います。

(参加者)

ありがとうございました。

10. しまなみ海道の通行料金の軽減について

今まで何回か”しまなみ海道”の話題が出たと思うが、今年6月の新聞でその海道の通行料が高いということで、住民の方が署名活動を行ったという記事を見たが、しまなみ海道の通行料がETC搭載の普通車でも平日1,660円、高いところでかかってしまうので、島民の人は家計や子どもへの負担を考えて、島しょ部から陸地部へ引越したり、高齢者の方でも利便性を考えて移住する人が多いようなので、署名活動の時に訴えかけたら、市のほうからは、建設全部を他の高速道路の利用者にも補ってもらっているんで、海道限定で通行料を軽減するのは難しいということだった。

このままでは島に人がいなくなってしまうという懸念があり、世界中から来るサイクリストにアピールすることはもちろん大事で優先順位は高いと思うが、今島しょ部に住んでいる人のための補助として、例えば、バスだけでも通行料を下げるためにバス会社に補助金を出すといったことも必要なのかと思うが、そのことについてどのようにお考えか。

【知事】

そうですね。これはものすごい難しいテーマなんです。やっぱり地域を挙げて橋を架けることによって離島の弱点を補いたい。そうすることによって命が助かったり便利になるということで、その願いを込めて国全体の事業として巨額のお金が投入されてつくられたという経緯があるんで、その今治の回答というのは、まさにそこらあたりからくる話だと思いますね。全国同じようにそういう形で成り立っているんで、実は6年前までもっと高かったんです。というのは思った以上に費用がかかってしまったんで、それを全国的なプールの中で償還していかないといけないんで、ここだけ突出してさらに高い値段だったんです。これはいくら何でもひどいかな、ということで、僕も当時知事として動いたんですけど、少なくとも全国と同額、同じルールでやるんだから同額にすべきだということで、その結果5年前から少し下がったんです。今そこまではきているんです。ここから先の個別の政策になってくると地域の政策になってくるので、まず市としてどうするのかを住民の皆さんと考えて、市としてこういう形でやりたい。ついては、例えば、県に少しバックアップしてくれないか、っていうふうなことであれば限定した料金引き下げってのは不可能ではないと思うけれども、まず今治市、僕は松山市の時は、例えば直接の、ここは橋じゃなかったけど、フェリー航路で通学だけは松山市がバックアップしようとか、そんなことは個別にはやっていたんで、そこでどれだけのことができるかってのは財源も限られていますから、全体の財政状況も踏まえた中で何ができるかってのを答えを見つけていくしかないなあというふうに思っています。これは誰しもが安いほうがいいというのはわかっているし、そこらへんどこで着地させるかってのは、我々こういう仕事をやっているといつも悩まされる所です。

一方で、打ち出の小槌のようにお金があるわけじゃないんで、投資した金額、その背景、そして今後の財政状況、これをトータルで考えてどうするかっていうふうに考えていくしかないのかなあと思います。ただ、今の意見というのは島民の皆さんからも「もっともだ」という気持ちだと思うので、どこまで応えられるかというのは今後の課題だと思います。

(参加者)

ありがとうございました。

【知事】

少なくとも、今、突出して高かったしまなみの料金は全国平均値になったということだけは、一応知っておいていただけたらなあと思います。

11. 四国へのプロ野球チームの誘致について

知事が最初に話題に挙げた空港の整備、人口の流入、若い人たちが愛媛県を訪れたり、観光を盛り上げたい、自転車パラダイスにしたいなど、それを盛り上げるために1つの提案として挙げさせていただきたい。

僕は、プロ野球が毎日観戦するほど好きなんですけど、四国、愛媛に、野球チームがないなど。ほかの地方にはチームがあるのに、なんで四国にはないと感じたんですが、もし、四国にプロ野球が誘致できるのであれば、今までの問題になった観光、石鎚山、別子銅山など様々なところでアピールできたり、他県から訪れた人がサイクリングを行ったりと、愛媛の魅力をもっとバックアップできるんじゃないかと思っている。また、愛媛だけじゃなく四国にも、そのチームを応援するという団結力が上がったり、連携が上がるんじゃないかなと思っている。知事のご意見をお伺いしたい。

【知事】

実は、僕松山市長をやっていた時に、坊っちゃんスタジアムという球場をつくることになって、完成した後これをどう生かすかというのが大きなテーマだったんですね。1つにはオールスターゲームを、四国に来たことがなかったんで、この野球場でオールスターゲームをやろうと。それからもう1つは、キャンプを取ってくる。今はヤクルトスワローズが来てくれているけれども、両方ともうまくいきました。実はその先にプロ野球というのは考えていたんです。可能性はどうだろうか、ということ野球界にも働きかけたりしていたんですが、これは野球球団の運営もビジネスなんで、やっぱり収益というものを当然考えますね。正確に言うと、周辺人口が最低70万人ないと厳しい。なぜかという、プロ野球は140試合だけな、ということはフランチャイズであるホームゲームが70試合開催されるわけよね。70試合の中で採算ラインというのがあって、1万2,000~1万3,000人が採算ライン。観客が。常時、平均で上回らないと赤字が発生する。こういう世界らしいんですよ。その1万2,000~1万3,000人の平均を取るためには期待値としてデータ分析すると、周辺人口70万というのが最低条件なんで、100万あればもう大体いけるというデータだった。松山市の周辺全部ひっくるめて中予地域、アクセスの時間の観戦エリアをひっくるめて62万なんだよね。こうなると松山市単独ではとてもでないけど無理だなと、残念ながらそこで挫折した経験があります。

そこで県の仕事いただいてから、高速道路もつながったんで、四国でどうだろうかという話を他の知事にもしました。こうなってくると、もう1つ問題が出てきたのが、プロ野球の公式ゲームを開催するに足る球場があるかないか。坊っちゃんスタジアムは全く問題ない。オールスターゲームをやったぐらいだし、観客席が3万席あるんです。あそこ。ですから十分対応できる。最低1万2,000って言ったけど、もっと収益を上げていくにはいいカードは3万入れなきゃいけない。3万は絶対いるんだよね。いろいろ調べてみたら、香川県のオーリーブスタジアム、ここは何

とかギリギリセーフかなと思うんだけど観客席は2万4,000。徳島の球場、これは設備がないです。一番大きいところでも県営球場で1万人しか入れない。高知、春野球場、ここも観客席は1万人しかないし、特に高知の春野球場の場合は、もう1つプロ野球の条件がないのが、調べるとナイターがない。ナイター設備がない。そうすると、もしこれを四国でやる場合は徳島と高知にプロ野球仕様の球場をつくってもらわないと四国全体でやるってことは現実化しないので、それは他県のお財布のことなので、一応そういうもんですよっていうのは言っているんだけど、どうするかはわからない。そこまで条件が整ったら、十分可能性としてある。ただ、四国で納得されるかどうかはわからないんだけど、僕の大雑把な計算だと、70試合のうち35試合は坊ちゃん（スタジアム）でやって収益頭にして、残りの35試合を分けていくということに四国が同意できるのかどうかって問題もあるし、そういったものをクリアしていけば決して不可能ではないという状況にはあると思いますが、ハードルは結構高いなあと思っています。ただ、あきらめてはいません。

(参加者)

ありがとうございました。

12. 県下の高校生に望む姿について

私は昨年度、愛媛県推薦枠として日本の次世代リーダー養成塾に参加した。そのリーダー養成塾では本当に視野が広がり、世界に目を向けることの大切さとか、SDGsとかいった国際問題の深刻さというのを本当に知ることができた。その一方で、私が通っている高校がある上島町では少子高齢化がとても進行していて、愛媛県でも少子高齢化率が2位で、本当にひどいんですけど、上島町ではUターンとかIターンをととても推奨してて、支援金とかも出したりしてるんですけど、それで本校でも総合学習で地域と連携した学習に取り組んでいるが、グローバル化と地域の活性化というのは両立するのは難しいと思う。

知事は愛媛県下の高校生にどんな人材になってほしいんですか、ということと、加えて、先ほどから全国募集の学校についての話が出ているんですけど、本校でも寮がないというのは深刻な問題なので、本校それから上島町というのを頭の隅に置いていてください。

【知事】

冒頭に言ったように本当に時代が変わり始めているので、例えば、僕が働いていた商社などは当時のビジネスと今のビジネスは全く形態が違うんですよね。僕らのころは、とにかく危険な国であろうが衛生環境の悪い国であろうが突っ込めと。そして開拓しろと。ビジネスをつくってこいということが中心だったんですよ。今はそういう仕事は本社でやってなくて、なんか机の上で計算して投資をしてどれだけリターンがあるかとか、この会社を買収したらどうなるのかとか、そっちのほうにいったちゃったのね。それがいいか悪いかはわからない。地に足が着いてないから、ばあ〜んといく時もあればドカーンといっちゃう時もあるんで、でも、昔のように地に足の着いたビジネスってのはそう効果はないから、果たしてどっちがいいのかってのは先に行ってみないと答えは見えないけれども、仕事環境が大幅に変わってきているんです。ただ、1つ言えることはさっき言ったように、縮小していく国内市場、インターネットを中心とした環境の変化、IT技術の進化で世界の距離はどんどん短く近くなってくるし、国境の垣根も低くなってくるのは皆さんの時代だと思います。

逆に、その技術さえあれば地方のどこからでも最先端の仕事ができるようになるんですね。5Gという新たな今度の回線が導入されると、例えば8Kの映画が10秒でダウンロードできちゃうんですよ。あっという間に。あるいは自動運転なんかも視野に入ってくるし、もうどんどん進化しちゃう。そんな時代になるわけだけでも、じゃあその開発ってのは都会でやる必然性は全

くないです。

徳島に1つの小っちゃい町があります。ここはラッキーだったんだけど、試験的に光ファイバーの回線が、ばか太い光ファイバーの回線を試験に使うために通していたんですね。ところが、試験が終わると誰も使わないんですよ。光ファイバーというけどダークファイバーと言われていた。そんなにすごものがあるのに誰も使っていない。というのは8車線の高速道路をつくったんだけど、2、3台しか車が通っていない、という。こんな状況だったんですよ。そこに目を付けた人がいました。これだけスカスカで使っていないということは、どこよりも早くやりとりができるじゃないかと。その町に古民家がいっぱいあるんでそこも開放しましょうというんで、都会から最先端の映像のプログラミングをする会社とか、データ管理をする会社とかがどんどん移り住んできたんです。そこでパカパカやっている。そこでつくり上げたものを東京へバーンと送れちゃう。むしろ、東京から他に行くときのほうが遅いぐらいになっている。そのうちまた面白いことが起こって、そういう人たちがいっぱい町に集まってきたら、食べるところが少ないね。じゃあみんな楽しく生活するために、誰かいいレストランを呼んでこようって言って、最先端のフランス料理店ができちゃったり、循環が始まっているんですよ。それは、たまたまここにファイバーがあったからということなんでしょうけれども、実は5Gという今度の規格っていうのをちらっと聞いたことがあるかもわからないけど、本当に東京オリンピック以降始まっていくんですね。それは、地方に、ある意味では今みたいなパターンをつくり出す道具になる可能性があるんですよ。今からこれをどう活用するかってのは地方自治体も考えなきゃいけないんで、今、県庁でもそういう研究会を発足してます。この技術は、医療にも教育にも、福祉にもいろんな可能性と変化をもたらすようになるんじゃないかなと思うんで、そういう意味では、地方にいながら働く環境、起業する環境ってのは、今とは全く違って広まっていくのかなというふうに思っています。

もう1つは、国際化ということを考えていくと、そりゃあ語学ができれば、これは便利でいいに決まっているんだけど、でも実際語学だけであればいいかっていったら決してそうではない。語学はあくまでもツールであって、やっぱり国際的なネットワークの中で仕事をしていくとなると、自分を磨いていかなきゃいけない。その磨くってのは勉強だけじゃなくて、例えば教養であるとか、いろんな幅広い視野を持った教養を磨くとかいろんなことが求められてくると思うんでね。その中で、さっきアイデンティティって言葉を使ったけど、よく外国人が話題の中で関心を示すのは、「君の故郷はどこ」とか、「あなたの国ってどういうところなの」という異文化に対する関心というのがものすごく強いんですよ。だからそういったものをちゃんとメッセージとして送れるところが多分教養だと思うんだけど、そういうところを磨いてほしいなあというふうに思います。

だから語学というものに特化しちゃうと通訳の領域しかいけないし、やっぱり人を磨くってのは大事なんじゃないかな、というふうに思います。だからいろんな経験をしたほうがいいってのはそこにあります。

(参加者)

はい。ありがとうございます。

13. 生名島と因島の架橋について

今日の話聞いて、観光の面でしまなみ海道の話が出たんですけど、上島町にある生名島と上島町は限りなく広島県に近いんですが、生名島と因島に橋を架ければ、絶対経済効果があると思う。

愛媛県と広島県ですごい難しいと思うが、それについてどう思われるかお伺いしたい。

【知事】

これ、本当に県が違うんでとっても難しいと思います。ただ、将来愛媛県単独でやるとすれば別のルート、愛媛県の他の島っていう橋ってというのは俎上に上がる可能性はあると思うけれども、県境を越えるってのはなかなか時間がかかると思いますね。とりあえず、今優先させたいのは岩城島、岩城橋なんですね。これによって上島が1つになるということで、そこは今の段階では何とも言えないなと思います。ただ、当時しまなみ海道を世界に向かって売り込むぞって言った時に、上島にも、また別の空間があるじゃないかということで町のほうに「何か名前を考えたほうがいいよ。」「早くやっておいたほうがいいよ。」って言ってできたのが「ゆめしま海道」だったんですね。あれはいい名前だと思うね。だから両立てで売り込んでいく。ちょっと今の質問と違うけれども、両方の魅力が違うから、特に、さっき言ったように都会の人なんかは船に乗る経験がないんです。だから自転車を積んでフェリーに乗るなんて言ったら、それだけで大感動なわけですよ。例えば上島だったら、岩城橋が通れば今度は4つの島、佐島も含めてそれを結んだイベントなんかも考えられるし、生名島マラソンというのをやっているけど、あれ、最初10年前は、300人ぐらいの大会だったんですが、僕が一回行った時に、やっている子に、ハーフマラソンをやったほうがいいと。当時は10キロまでしかやっていなかった。「ハーフマラソンまでもっていったら、多くの人が走ってみようかなって来始めるよ。」と。ただ運営が大変だから成功例があると。南予の松野町と今回被災した野村町、ここのハーフマラソン大会ってのは、例えば松野町ってのは人口が3,000人なんだけど参加者は3,500人になっている。朝霧湖マラソンも参加者3,000人、こういう例があるよと言って視察に行ってもらった。やってみるということになって、今、生名マラソン、生名島から佐島に渡って、弓削島に渡ってぐるっと回って、僕も2回走ったけど、今1,500人ぐらいの大会にまで育ってきました。今度これが岩城橋が通じると、岩城も結んだイベントができるようになるんじゃないの。もう1つ言えば、岩城の積善山なんていうのは3,000本桜が植わっているわけでしょう。あそこで開花する桜はびっくりするぐらいのスケール。そのスケールってのは全国の雑誌でも名所として取り上げられているんだけど、そこの宣伝が全然できてない。愛媛県の人でも多分知らないと思う。だからそのアピールをもっと考えたら、いろんな仕掛けができるんじゃないかなあというふうに思います。ちなみに、全部個人的にも回っていますから。岩城島を自転車で一周したこともあるし、ある時は弓削を一周してから佐島に渡って、端っこのほうの海岸まで行ってUターンして、最後に生名島を一周して船に乗って帰ったというサイクリングをしたことがあるんだけど、最高のコースですね。あれは絶対人気が出ます。

（参加者）

はい。ありがとうございます。